

第4学年4組 社会科学学習指導案

指導者 野土谷淳

1. 日時・場所 令和8年1月21日（水） 5校時 4年4組教室

2. 単元名 「自然災害にそなえるまちづくり」～今後起こりうる自然災害から人々を守るために～

学校教育目標

よく考え 工夫する子【かしこく】知

なかよく はげましあう子【やさしく】徳

たくましく ねばり強い子【たくましく】体

めあてをもち 学び続ける子【やりぬく】意

3. 学校教育目標と社会科で目指す子どもの姿

学校教育目標の実現に向け、各教科等の学習では「確かな学力の育成」「ともに学び、高め合う喜びを実感できる授業づくり」や「GIGA スクール構想の推進」などを今年度の重点にしている。ICTなどを活用しながら、個々の興味・関心、特性などに応じた学習方法を選択・判断しながら自己決定することを大切にして学び続けることができるようにして、確かな学力を育成していきたいと考えている。特に社会科においては、上記の内容を取り入れやすく、日々の授業の中で重点を意識して授業づくりをしている。紙面での資料も従来通り活用はしているが、場合に応じて、GIGA 端末を用いて資料を閲覧したり、動画での資料を活用したりしている。

3. 単元目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などを資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにすることとともに、主体的に学習の問題を追究解決しようとしたり、学習したことを基に自分たちにできる自然災害への備えを考えようとしたりする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて聞き取り調査をしたり、年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。 ② 調べたことを年表や図、文章などにまとめ、地域の関係機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え、表現している。 ② 自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動と関連付けて、それらの働きを考えたり、地域に起こり得る災害を想定し、自分たちにできることを選択・判断したりして表現している。	① 自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したことを基に自然災害の備えについて自分たちにできることを考えようとしている。

6. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

(1) 教材化～地震と風水害の2つの事例から考える神奈川県川崎市における自然災害～

久地小学校4年生では、過去の東日本大震災で被害を受けた家庭があったり、親戚や知り合いが東北にいて当時の様子を聞いたりしている児童がいる。さらに近年、首都直下型地震や大正型関東地震などの話題が多く挙がり、地震に対してより一層の危機感をもっている家庭や児童も多い。また、神奈川県川崎市の久地は多摩川に近い地理的条件から、2019年の台風19号で直接的な被害に遭った家庭や、避難所へ行った経験のある児童が多くいる。そうしたことから、本単元では地震と風水害の2つの事例を中心に取り上げて学習を進めていくこととした。本時では、子どもたち一人ひとりが個々の興味・関心や家庭環境などに応じて、地震か風水害のどちらかを選択して具体的な調べ学習を進めていく流れを計画している。

また、こうした2つの事例を扱うことによって、単元終末の自分にできることを選択・判断する時間においても、自身の状況や家庭環境に応じて、必要性の高い事例からできることを考えていくことができるようになると想定している。

(2) 学習過程～未来を見据え、必要感や危機感を伴う単元の問いづくりから学習を進めていく～

単元の導入場面では、神奈川県内で過去にあった多様な自然災害について学んでいく。そこで地震について学ぶ際には、地震体験車を用いて東日本大震災の時の揺れの大きさを体験したり、大正型地震や首都直下型地震が30年以内に起こる確率を知ったりする学習を計画している。また風水害においても、地球温暖化の影響で今後、より大きな台風が来る可能性が高いことを資料提示する。このような学習を通して子どもたちは、危機感や学ぶ必要性を強く感じながら単元の問いを立てたり、見通しをもったりすることができるような学習過程を計画している。そのような学習過程を経ていくことで、市民や県民のために、多くの関係機関や地域の方々が協力しながら対応したり、備えたりしていることを知る中で、感謝の気持ちをもちながら、自分でもできることを考えようとすることができると想定している。

(3) 学習活動～自分に合った学習方法を選択・判断できる学びの環境づくり～

子どもたちが学習していく際に、個々の興味・関心や自分に合った学習方法を選択できるような学習環境を整備していきたい。例えば、ゲストティーチャーの活用方法においては、一斉講和を通して学ぶのではなく、講和の内容を事前録画し、必要に応じて動画を編集したり、テロップを付けたりしたものを子どもたちの端末に配信していく。動画配信することで子どもたちは、任意のタイミングで停止したり、巻き戻したりしながら調べ学習を進めることができる。しかし、ゲストティーチャーとは直接会わず、動画を介した学習だけで良いとは思っていない。直接会って話すことでその人の思いや熱意が伝わることも大いにある。そこで本時では、川崎市の危機管理課の方々に質問コーナーに在中して頂き、子どもたちが任意のタイミングで質問しに行くことができる場の設定を考えている。また本時では、質問コーナーの他に、個々に調べ学習を進める「自分調べコーナー」や、任意の友達と相談しながら学習ができる「相談コーナー」、そして黒板に掲示した資料をもとに説明し合う「拡大紙コーナー」など複数の場を用意する。これらの場を選ぶことを通じて、子どもたちは自分に合った学習方法を選択・判断できるようにしていきたい。

また、社会科における学びの環境づくりとしては、社会科資料室も大きな役割を果たしている場所だと感じている。今年度から社会科資料室の改善を進めている。3～6年生の社会科の学習で活用できる動画資料を、資料室にあるQRコードから任意のタイミングで視聴できるようにしたり、社会科に関係する「都道府県かるた」など



を通して社会科に親しむことができるコーナーを設置したりしている。

こういった社会科資料室という場所を通して、子どもたちが社会科により親しみ、任意のタイミングで資料を探ることができるようにして主体的な学びにもつなげられるようにしている。

(4) 指導と評価 ～個々の学習状況や成果を見取り、多様な支援方法を行っていく～

(3) で記述したゲストティーチャーの講和動画については、子どもによっては動画媒体の資料よりも文字媒体の資料の方が適していることも大いにある。そういった児童のために動画資料だけではなく、活字版の紙媒体の資料も併せて用意して個別支援に生かしていきたい。また、本時の問いは前時に設定し、調べ学習を行っておくようにする。事前に子どもたちのノートから個々の学習状況を見取り、本時での手立てを準備しておくなどの学習を進められるようにしていきたい。

(5) 一人一人が生きる社会科学習～見通しをもつことでできる、主体的な学び～

子どもたちが主体的に学習に取り組み、個々の学びが全体に広がって一人ひとりが輝くような授業をしていきたいと考えている。そこで、「学習指導要領解説社会科編P、150～151 小・中学校社会科における内容の枠組みと対象」を子どもの言葉にしてまとめた“社会科 学びのつながり表”を提示したり、4年生での年間の社会科の学習予定を示したりしながら、学習の見通しをもつことができるようにした。これらを提示したことで子どもたちは、ゴールデンウィークの旅



行を活用して小田原城を訪れて調べてきたり、多摩区内にある二ヶ領用水についての展示や案内がある「せせらぎ館」へ訪れ、職員の方へ取材に行ったりする様子があった。そんな主体性を生かした個々の学びを、学年の社会科クラスルームへの投稿を通して学年全体へ広げていった。そのことで、1人1人が調べてきたことを教師が適切に見取り、学習の中で資料として提示しながら、子どもたち個々の学びが全体へ広がり、一人ひとりが輝くような学習ができるように心がけてきた。

7. 単元構想図



8. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（9時間） ※□は評価したことを記録に残す場面

○本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料や体験活動	評価方法【評価規準】
① 神奈川県内での過去にあった自然災害についての資料を調べたり、地震体験車に乗ったりすることを通して、過去に様々な自然災害があったことを理解できるようにする。	○ 過去に神奈川県内で起こった自然災害の資料を調べる。 ○ 地震体験車を通して、過去の災害の恐ろしさを知る。	◇過去に神奈川県内であった自然災害 ◇地震体験車 ◇児童からの提供資料（地震体験車の体験談、東北に住む祖父の話～東日本大震災の様子～）	発言内容やノートの記述内容から、「神奈川県内では過去にどのような自然災害があったのか理解しているか」について評価する。【知—①】
② 神奈川県では、自然災害から人々を守るために多くの人が取り組みをしていることに気づき、単元の問いを設定し、学習計画を立てることができるようにする。	○ 単元の問いに対してその予想や、その根拠となる資料を調べる。	◇『川崎市に大地震が起きた日』の冊子 ◇神奈川県で30年以内に大きな地震が起きる確率や、今後起こりうる台風についての資料	発言内容やノート、端末の記述内容から、「大地震や台風が起こった際の様子を調べ、学習問題の解決の見通しをもっているか」を評価する。 【思—①】【態—①】
③ ④ 過去の自然災害時での対応の様子について調べることを通して、各関係機関が協力しながら人々を守っていることを理解できるようにする。	○ 東日本大震災や2019年の台風19号の時の写真や資料を調べる。	◇東日本大震災や台風19号の時の写真などの資料 ◇東日本大震災や台風19号の時の関係協力図 ◇川崎市災害時協定一覧	発言内容やノートの記述内容から、「自然災害の際には、各関係機関が協力しながら人々を守っていることを理解しているか」を評価する。【知—①】
⑤ ⑥ 地震や台風に対しての様々な関係機関での備えについて調べたことを通して、県内の関係機関では、協力しながら計画的に備えていることについて理解できるよ	○ 各関係機関では、今後の自然災害に対してどのような備えをしているのかについて調べる。 ○ 川崎市危機管理課の方へインタビューをする。 ○ 調べたことの共有	◇各関係機関での自然災害に対する備えの資料 ◇川崎市危機管理課の方の話 ◇神奈川県での地震に対する被害想定	発言内容やノートの記述内容から、「県内の関係機関では、協力しながら計画的に備えていることについて理解しているか」を評価する。【知—①】 授業中での話し合いの発言内容やノートの記述から、「各関係機関

うにする。			や地域の人々が協力しながら今後の自然災害に向けて計画的に備えていることを考え、表現できているか」について評価する。 (思—②)
⑦ これまで学習してきたことをもとに、神奈川県では各関係機関で協力しながら人々を守っていたり、今後の災害に対して計画的な備えをしていたりすることを理解できるようにする。	○ 学習したことを思考ツールや図を活用しながら学習問題に対しての考えをまとめる。	◇これまでに活用した資料	発言内容やノートの記述内容から、「神奈川県では各関係機関で協力しながら人々を守っていたり、今後の災害に対して計画的な備えをしていたりすることを理解しているか」を評価する。 (知—②)
⑧ 自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動と関連付けて、それらの働きを考えたり、地域に起こり得る災害を想定し、自分たちにできることを選択・判断したりして表現できるようにする。 ⑨ 学習したことを基に自然災害の備えについて自分たちにできることを考えることができるようにする。	○ 災害時の避難所の様子や、市民が取るべき行動について調べる。 ○ 自然災害に対する自分の家庭の備えの状況を調べる。 ○ 「マイタイムライン」を用いて自然災害時に自分や家族が取るべき行動について選択・判断したことをまとめる。	◇東日本大震災の時や台風19号の際の避難所の様子の資料 ◇自分の家族の備蓄状況 ◇マイタイムライン	発言内容やノート、マイタイムラインの記述内容から、「地域に起こり得る災害を想定し、自分たちにできることを選択・判断したりして表現しているか」を評価する。 (思—②) 発言内容やノート、マイタイムラインの記述内容から、「学習したことを基に自然災害の備えについて自分たちにできることを考えているか」を評価する。 (態—②)

9. 本時の展開（6／9）

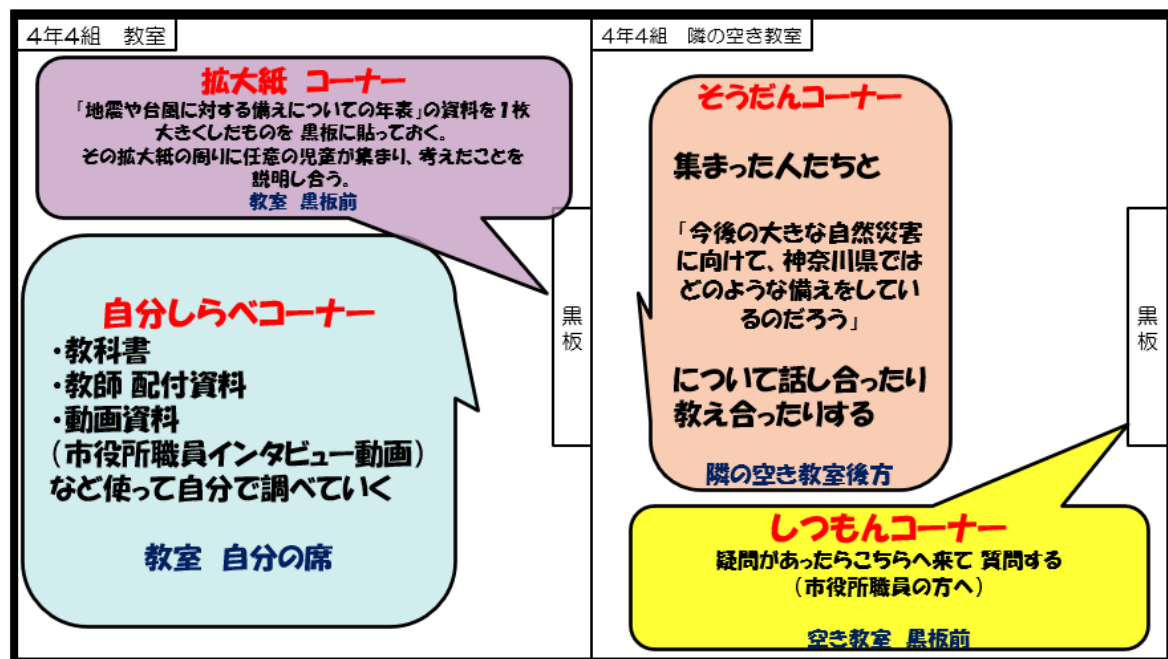
（1）ねらい

地震や風水害に向けて神奈川県ではだれがどのような備えをしているのか、調べたことを関連付けたり総合したりしたことを通して、各関係機関や地域の人々が協力しながら今後の自然災害に向けて計画的に備えていることを考え、表現できるようにする。

（2）展開

学習活動	・予想される児童の反応（☆教師の発問）	支援（○）と評価規準
1. 前時に立てた問いを確認する。	今後の大きな自然災害に向けて、神奈川県ではだれがどのような備えをしているのだろう	
2. 個々の興味・関心、特性に応じた方法を選んで調べていく。	<div>地震や台風に対する備えについての資料</div> <div>地震や台風に対する備えについての年表</div> <div>市役所の職員の話</div> <div>学年児童の提供資料（一部抜粋）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくは台風19号の時に避難所へ行ったことがあるから、台風への備えについて調べよう。 ・ インタビュー動画を見返しながら、気になったことを市役所の人へ質問しに行き調べてみよう。 ・ 動画だと分かりにくいな。先生に相談して文章資料から調べよう。 	<p>○ 個々の興味・関心、特性に応じて調べる方法を選択・判断できるようにする。そのため、4組教室と隣の空き教室を活用し、場に応じて活動方法を選ぶことができるようにする。（次ページ参照）</p> <p>○ 前時終了時のノートから、個々の学習の進捗を見取っておき、本時の調べ学習の際に個別支援ができるようにしておく。</p> <p>例えば、動画資料の読み取りが難しい場合には、動画の内容の紙媒体資料を用意しておき、必要であれば追加配付していく。</p>
3. 調べたことや考えたことを全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台風にも備えるため、過去の被害を調べて、必要な水位まで下げるために川の砂利を取っているよ。 ・ 地震でも、過去の災害から学び、地震に強い家や水道管を増やしているね。 ・ どちらも“過去の災害から学んで計画的に”自然災害に備えているね。 	<p>○ 地震の被害想定減少の資料を提示することで、自然災害に対して事前に備えることの重要性を再考できるようにする。</p> <p>この資料は「地震」についてだが、“計画的な備えによる被害減少”という点を焦点化することで、風水害においても同様であることを全体で話し合う。</p>
4. 資料をもとに考えを深める	<div>【児童提供資料】川崎市直下地震の被害想定（神奈川県の地震被害想定の見直しについて）</div> <p>☆ どうして県内の人口は増えているのに、地震の被害死者数の想定が減っているのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 台風への備えの資料の中で、「計画的に備えているから被害は減るはず」とあったよ。地震や風水害のどれでも同じく、計画的な備えのおかげなのだね。 	<p>○ 夏休みに「川崎市直下地震の被害想定」について調べてきた児童がいた。その児童を意図的に指名し、その内容についてみんなで考えていけるようにする。</p> <p>○ この場面で、「計画的な備えによる価値」についても気付くことができるようにしたい。</p>
5. 学習のまとめとふりかえりをする。	<p>今後の大きな自然災害に向けて、神奈川県では地域の人々や様々な関係機関が協力をして、計画的に備えをしている。例えば～。そして、そんな計画的な備えがあったからこそ、令和7年度の被害想定を減らすことができていた。それは、地震だけでなく風水害でも同様の取り組みが行われている。</p>	<p>授業中での話し合いの発言内容やノートの記述から、「各関係機関や地域の人々が協力しながら今後の自然災害に向けて計画的に備えていることを考え、表現できているか」について評価する。【思—②】</p>

※ 1 参考資料（場の説明）



10. 「社会のしくみ」と「社会のかかわり」をつなぐ理解の構想図

